丸山湿原群保全の会会報

（第 145 号）

発行日：2019 年（R1）８月 16 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

お盆を迎えています。しかも超大型台風も迎えていて湿気の多い風が怪しく吹いています。西谷（玉瀬）では 14 日に墓参り、院主（住職）さんもこの日に檀家回りをされます。１日中お経を唱えてかなりのご苦労のようです。ま～仕事といえばそれまでですが…

お盆といえば盆花（仏花）。最近は売っているものを使う方も多いようですが、西谷では**シキミ（樒）**や**ミソハギ（禊萩）・オミナエシ（女郎花）・キキョウ（桔梗）**などを近くで自生（植樹・栽培）しているのものを使います。**その花も絶滅危惧種となりつつあります。街で売られている仏花はシキミの代わりにヒサカキ（非榊・姫榊・緋榊　諸説あり）を主としたもの。**

ヒサカキは神前にも代用（本来はサカキ＝榊）。こちらではシャシャキと呼びますが仏花・神前用として使っていると呆れられます。なんせ非なる榊ですから。仏花としてシキミが用いられたのは猛毒があり（特に実に）土葬の際に荒らされるのを防いだとか。真実は？？？ヒサカキが使われるのは地域の植生の問題か？院主さん教えて！ちなみに西谷では**シキミのことをシキビ（樒平？）とも言います。**

台風お気を付けください。といっても発行時には過ぎ去っていると思いますが…

（今住　８月 14 日作成）

ガイド研修ツアー　★7 月 27 日（土）四国　国営讃岐まんのう公園（自然生態観察園）

今年度のガイド研修ツアーは四国。満濃池の近くにある「国営讃岐まんのう公園」広大な敷地の中の自然生態観察園へ。会員の知り合いがインタープリンターとして活躍されているのでガイドを依頼。**今回もガイドを盗め！**がテーマです。今回の場所では**水田生態系が整備（保存）され、現在危機的状況の植物が保全されていました。**

インタープリンターの皆さん

香川は最近までため池の数１位。現在は２位。兵庫（1 位）に次ぐため池王国です。**圃場整備に伴って小さな池は統合もしくは埋められました。乾田化も伴い、その中で失われていった動植物が多数あったようです。**

場所はもともとため池を水利とした谷地田。反収が低く公園整備で消えるはずのところを、希少な植生や昆虫類（特にトンボ）が見出され、保全へとつながったようです。今は自然栽培（有機不起耕栽培）で管理。

丸山湿原の植生とは異なるところもありますが、大変興味深いものでした。田んぼの中には**ヤナギスブタ（柳すぶた）、アギナシ（顎無）、ヤマトミクリ（大和実栗）**がわんさか生え

ただの草原のようですが…

水田内のヤナギスブタとヤマトミクリ

ていました。特にヤナギスブタの量には驚きでした。**奇妙な名前ですが、スブタは名古屋の方言で女児の乱れ髪を表すそうです（すぶた髪）。**決して中華料理ではありませんのでご承知を。**農薬に大変敏感な植物で全国的に消えつつあります。西谷にも少し残っています。**アギナシは丸山湿原にも多数。貧栄養が条件ですので、田んぼにはありがたくないないですよね。田んぼに似たものが生えるとオモダカ（面高）です。前回も紹介した矢じり型の葉を持つ花です。**ヤマトミクリは普通浅いため池に生育。これは意外にも西谷のため池に結構あります。栗の実がなっているような植物です。身近にありますので探してみてください。県 RDB　B ランク指定です。**

後半はキノコやシダのガイドもしていただきました。一番印象に残っているのは、**ヤマンバノカミノケ（山姥の髪の毛）**。これは名前に衝撃。同行した会員が落としたのでは？と勘違いしたほどでした。（しもた、セクハラや！）

実はキノコの根状菌糸束だそうで、ナラタケ属やホウライタケ属などの菌糸が変化したもののようです。帰って探してみると結構どこにでもある！驚きでした。日本で最初に根状菌糸束だと発見したのは南方熊楠。山へ入って糸状のものが枯れ枝や葉っぱから出ていたら、それがヤマンバノカミノケです。強度もあり光沢もあるため、神社への奉納物にもなっていたとか。恐るべし山姥。

ガイドのお話は軽妙で、わかりやすく植物や文化についての解説も多数あり今後のガイドに役立つことばかりでした。実践に役立てていきましょう。どうもありがとうございました。

定期活動　**★7 月 28 日（日）　第 1 湿原サギソウ調査ルートササ刈り　7 名で活動**

研修の翌日でしたが、この日作業をやらないとサギソウ調査に間に合わない。ひょっとして 1 人？2 人？と思っていたら 7 名も参加。これだけいれば作業がはかどります。

毎年のことですが、センサスラインの設置のための下草刈り。ただ今回はその前段階。第 1 湿原最上部（北側＝第 1 区画）は笹原状態。いつもサギソウは見られない場所です。それなら刈り取り不要では？いえいえその場所にサギソウが見られる日を楽しみに作業です。ササのはびこり防止にも役立ちます。年ごとにササの背丈は短くなっています。成果？でしょう。第 1 区画から視点場までの作業となりました。**ところが事故発生！冬季作業で刈り取ったヌマガヤの中にキイロスズメバチ（黄色雀蜂）の巣が。その**ヌマガヤを踏みつけた**会員が刺されました。本日はポイズンリムバー持参せず。反省。毒を絞りキンカンを塗って様子を見ました。**アナフィラキシーショックは無いよう。用心のため先に下山。**すいません一人で帰してしまいました。**帰宅後、休日診療に行かれたそうですが特に処置もなし。医師は傷口（刺された場所）も見ず。「翌日、もっと腫れますよ。皮膚科受診してくださいね」と。そして飲み薬を処方。さらに「今日はハチ刺されが多いな…なんでやろ」と。言ったそうな。どう思います皆さん？プンプン！とりあえず無事でよかった。

ササが刈り取られたセンサスルート

キイロスズメバチの巣（仮？）

しかし、キイロスズメバチといえばあの大きな縞々模様の提灯巣。なぜ？土の中の巣といえば毎年見ているのはオオス

開花初期のサギソウ

ズメバチ。調べてみると、初期のキイロスズメバチは閉鎖空間に一時的な巣を作ることが多いそうな。その後働きバチが増えた段階で引っ越し。あの巣を作るそうです。ということはこのまま置いておくと巣は無くなる？まだ時間はある。次回まで様子を見ることにしました。

皆さん気を付けましょう。マムシも多いよ！肌の露出にはお気を付けください。

サギソウ（鷺草）ですが開花が始まっていました。昨年も７月中に開花。第４湿原でも多くの開花を確認。ピークは早いのか？その後ヒナノシャクジョウ（雛錫杖）を確認。これは今年大豊作。すぐ消える可能性もありますが、探せる方は探してください。歩道から観察できます。ただし細かいものですので踏み荒らしにはご注意を。ホンゴウソウはこの時点では発見できず。次回には見られるかも？

ヒナノシャクジョウ開放花

ドローン空撮　７月 29 日（月）北摂里山博物館協議会　バーチャル博物館映像用

北摂里山博物館協議会（兵庫県阪神北県民局内）が中心となりバーチャルでも丸山を知ってもらおうという企画です。（間違っていたらごめんやで）360 度カメラをつけて、委託された業者の方が撮影を。横で「こんな感じに」とか、「あそこをこういう風に」とかできそうにもないことを注文して撮影していただきました。映像はどう出来上がるか？YouTube にも UP されるそうなのでご期待ください。青空に飛びあがるドローン。何か生命のような感覚を受けました。それも怖いですが、時々猛禽類やカラスが獲物やテリトリー侵入と勘違いし襲われることもあるとか。オペレーターはドローンを無くすとただの人になってしまいます。「仕事のためにはドローンの安全確保が第一です」と。妙に納得。そう言えば、消防団時代に車両の安全確保を厳しく言われました。消防車が現場に届かないと火事は消せませんもんね。消防車がないとただの人。なんのこっちゃ？

ドローンをキャッチ

★8 月 10 日（土）定期基礎調査・巡回、観察、ライン設置、ルート作業　10 名で活動

目的	市内	市外
丸山	43	45
ハイキング	9	21
その他	11	9

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度（EC）	PH
入口	10：05	32.2℃		
第３湿原	10：27	【26.4℃】	101.8μS/cm	6.6
視点場	11：01	33.6℃	計測不能（水無し）	不可
第１湿原	11：27	【26.9℃】	106.7μS/cm	6.4
第２湿原	12：10	【28.7℃】	51.6μS/cm	6.6

来場者数　計 138 人
（竹筒ポスト人数）

若干「伝説の竹筒ポスト」人気に陰りが見えてきました。それとも暑さのために来訪者が実際少ないのか？団体が減ったしね。次回にまた期待しましょう！サギソウ効果があるに違いない。

さて、この時期ですが雨が少ない。梅雨明けから全くと言っていいほど雨が降っていません。台風の情報を聞きながら書いていますがどうなるでしょうか？

とにかく第１湿原の状態は流水がわずか。そうなると電気伝導度（EC）の値は高くなります。第２湿原が低いのは、谷が深く流水が確保されていることによると推測されます。また集水域の違いも原因かもしれません。PH は中性。やはり湧水湿原の PH はほぼ中性なのでは？と思うこの頃です。計測を始めてほぼ同じ数値で推移しています。

さて、前活動の続き。まずキイロスズメバチです。巣を確認。おっ！予想通り蜂の姿全くなし。自慢げに前回調べた内容をみなさんにレクチャー。そして、確認のため巣をほじくりまわしました。と…なんと出てきました。キイロスズメバチが！どういうこと？仕方なく会員持参のハチジェットで処分。出てきたハチの数はほんの数匹。どうゆうこと？真実が見えないハチ騒動でした。

ひょっとして移動した女王蜂が残した蛹が残っていた？妄想です。真実は藪（ヌマガヤ）の中。近いうちに解体しましょう。

センサスラインとブロックライン設置中

そして、サギソウ開花数調査のセンサスライン設置。毎年のことですが、少しづつ調査しやすいように工夫しています。作業は慣れてきていますが、油断が出たのか事故が！湿原内転倒。シルトが服の生地にしみこみます。なかなか取れない。洗濯機に放り込むと怒られるので、部分洗いをして洗濯機へ。それでも怒られるかも？誰に怒られるのでしょうか？想像にお任せします。

センサスラインこれより侵入禁止

あーあ　怒られる！

ライン設置は順調。その間サギソウが目につきます。すべての湿原で今年は多く観察できます。この日がピークかとも。しかしまだまだ花芽は残っています。調査日にピークとなるか乞うご期待。

同じ時期、同じ方法が基本。開花数が多いとか少ないとかに惑わされてはいけません。

ホンゴウソウ

でも多いほうがね…保全状態もいいと判断できるし。難しい。

ヒナノカンザシ

ライン設置と足場確保の途中でヒナノカンザシ（雛簪）のピンクにうっとり。ケシンジュガヤ（毛真珠茅）を観察。どちらも小さな植物で普段確認することはできません。どちらも県 RDB 指定。調査の時は踏みつけに注意してください。作業後、前回確認できなかったホンゴウソウ（本郷草）へ。先日、会員が確認済み。ありました、ありました。雄花はまだ咲いていないものも？あるようで、これからが最盛期かと思われます。ただ雨次第のような気もします。菌従属栄養植物はやはり菌類に左右されます。菌類の元気さが開花を左右すると思うのですがどうでしょう。ヤマンバ（根状菌糸束）は関係ない？あるんやろか？

丸山湿原セミナー

丸山湿原セミナー　今年も「西谷の森公園」で実施。ぜひご参加を！チラシ同封します。

次回活動日　９月７日（土）セミナー　14 日（土）22 日（日）　10 月 12 日（土）